

私たちが環境を考えるきっかけに



そらんぽ四日市
ホームページ

四日市公害と環境未来館では、12月2日(土)にじばさん(四日市市地場産業振興センター)で「四日市市環境フェア」を開催します。

このイベントは、環境活動団体などと協働し展示やワークショップなどを通じて公害や環境について考え、学ぶ機会を提供します。昨年度は600人の来場がありました。

今回は、市内に棲む水生生物の展示や自然の材料を使った工作体験などに18団体の出展を予定しています。

また、環境フェアの開催に合わせて、三泗地区内の小・中学校児童・生徒の「公害・環境に関する研究作品展」の

表彰式・研究発表会なども開催します。

会場でのさまざまな発表や体験を通じて、本市の環境の取り組みについて楽しく学び、身の回りの環境問題などを改めて考えるきっかけにしてはいかげでしょうか。



昨年度の四日市市環境フェア

☎ 四日市公害と環境未来館 (TEL) 354-8065 (FAX) 329-5792

平和への想い。今を大切に

皆さんは、「第二海軍燃料^{ねんりょうしょう}廠」を知っていますか。燃料廠とは、海軍が使用する液体燃料や潤滑油など軍需の大部分の生産を担った工場のことです。

1940年代に塩浜地区の港湾部に建設された第二海軍燃料廠は、昭和19(1944)年の東南海地震により、甚大な被害を受けました。さらに、同年10月には戦局の悪化に伴い、空襲を避けるために旧日永村の丘陵に「山の工場」として、燃料工場や貯蔵庫などを建設し、一部を疎開させました。

空襲を免れた「山の工場」の入口は、戦後コンクリートで密閉されました。現在、4カ所が残されており、その内

2カ所が泊山小学校の北にあります。工場の跡地は戦後開発され、南部丘陵公園、泊山壘園や住宅などが建設されました。そのうち南部丘陵公園にある日永梅林では、春には梅まつりが開催されるなど、現在は市民の憩いの場となっています。

景観は一変しましたが、この一角には戦争の爪痕が残り、その記憶を今に伝えています。改めて平和について考え、今を大切にしたいですね。

閉ざされた入口は民有地にあり、危険ですので、勝手に入らないようお願いします。



密閉された「山の工場」の入口(泊山小学校北)

☎ 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873